

『貧困研究』投稿原稿執筆要領

1. 投稿原稿の種類と文字数

- (1) 原稿の作成及び提出にあたっては、投稿規定を参照し、投稿原稿の種類を明記するとともに、種類別の文字数を厳守すること。
- (2) 文字数には、本文・図表・注・引用文献を含むものとする。
- (3) 図表は、A4用紙1/4ページ相当を400字、1/2ページ相当を800字、1ページ全体を使用する場合には1,600字換算とする。

2. 研究倫理の遵守

- (1) 執筆にあたっては、研究倫理を遵守すること。また、研究倫理審査を受けている場合には、必要な手続きを経ていることを本文または注に明記すること。
- (2) 守秘義務に照らし、プライバシーの侵害がないよう、個人名、地名、自治体名をはじめ細心の注意を払うこと。

3. 原稿執筆の形式

- (1) 投稿原稿は、原則としてパソコン（またはワープロ）を使用し、A4用紙（縦置き）に横書きで作成する。
- (2) 書式は、全角（欧文を除き）40字×40行で設定する。
- (3) 原稿は、①タイトル、②本文、③注、④引用文献の順番で記載する。
注・引用文献についても、すべて本文と同じ文字サイズで作成する。
- (4) 図表には表題をつけ、通し番号を付すとともに、単位、出典を明記する。
図表は本文中に組み込まず、別紙に記載すること。また、本文中に、図表を挿入する位置を明示する。
- (5) 投稿原稿の著者名は原稿本文には記載せず、チェックリストに記載する。
また、査読は著者名（投稿者名）を伏せ匿名で行っているため、文献等を表記する際には、著者本人の著作（著書・論文・調査報告書等）であっても「筆者」「拙著」等とは記述せず、著者名を表記すること。
- (6) 和文抄録を400字以内で作成すること。

4. 投稿原稿の提出方法

- (1) 投稿にあたっては、原稿の電子データ（図表・抄録を含む）、プリントアウトした原稿1部、チェックリストを揃え、投稿規定に記された送り先に提出すること。
- (2) 電子データは、指定されたメールアドレスに添付ファイルで送付し、原稿及びチェックリストは、指定された住所に郵送する。
- (3) チェックリストは、貧困研究会のホームページにアップされている。提出前に必ずチ

チェックリストをもとに内容を確認すること。また、チェックリストには、氏名、所属、連絡先、原稿の種類を明記する。チェックリストの提出がない場合は、投稿原稿を受け付けることはできない。

【付則】

1. この要領は、2020年5月12日より施行する。

制定：2020年5月12日

『貧困研究』表記方法

1. 本文の表記方法

(1) 表記は、現代かなづかい（引用文は原典による）、新字体による。また、代名詞、接続詞、副詞はできるだけ「かな」を使用する。

(例) 又→また 我々→われわれ 或は→あるいは

(2) 国名、地名、人名などは、漢字による表記が慣例となっている場合を除き、原則としてカタカナ表記にする。なお、一般化していない固有の名称（地名、人名、機関名、会社名など）は、初出に限り、その原語をカッコ内に付する。

(例) ○大江卓は、……。大江によれば……。

○ジャコビー (E. H. Jacoby) は……。ジャコビーの指摘によれば……。

○アジア極東経済委員会 (Economic Commission for Asia and the Far East ; ECAFE) が……。ECAFEは……。

○カオプラ村 (Tambon Khaopkra) には……。カオプラ村の人口は……。

○中央融和事業協会 (中融協) が……。中融協は……。

(3) 外来語、外国（中国を除く）の度量衡および貨幣の単位は、カタカナ表記にする。

(例) コーヒー ガラス メートル トン ドル

・図表では、一般的な単位は記号 (m, g, t など) を用いる。

(4) 数字の表記について

原則として算用数字（欧文書体・半角）を使うが「一つ」「一人」等の慣用的なものは漢字で可。本文中ではコンマを用いず、万以上の数字には万、億、兆などを用いる。

(例) 1万2000円（本文で数量が多用される原稿や図表中では12,000円の表記でも可）

(5) 年の表記は、主として西暦で示し、必要に応じて、カッコ内に日本年号を記す。

(例) 1913 (大正2) 年

・歴史的な記述については、その逆も可。

(例) 明治元 (1886) 年

(6) その他の表記について

・かっこや句読点などで、全角・半角の混同は避けること。

- ・行頭の空白は自動的処理（インデント）するのではなく、空白を入力すること。
- ・ルビ文字、注番号などは特別な処理を行わず、後ろにそれがルビ文字、注番号であることがわかるように入力する。

(例)・ルビ明石書店【あかししょてん】

- ・注番号……であった。

2. 引用文献・参考文献の表記方法

(1) 本文中には、「岩田は次のように指摘する（岩田，1999）。」のように記載。

- ・ページ数記載の場合は（岩田，1999：p.55）、複数著者の場合は間を；で区切る。
- ・著者2名の場合は（岩田・岩永，2017）、著者3名以上の場合は（岩田・岩永ほか，2017）とする（ただし文献リストに掲げる際は3名以上の場合も著者名を略さずすべて記載）。
- ・外国文献で著者2名の場合は（Iwata and Iwanaga，2017）、著者3名以上の場合は（Iwata, Iwanaga, et al. 2017）とする。

(2) 文献リストには、以下の要領で記載する。

A：国内文献の場合

①単行本：著者（出版年）『書名』（シリーズ名）出版社。

（例）荻谷剛彦・西研（2005）『考えあう技術—教育と社会を哲学する』（ちくま新書）筑摩書房。

②翻訳文献：著者（出版年）『書名』（シリーズ名）訳者、出版社。

（例）デリダ、ジャック（2004）『死を与える』（ちくま学芸文庫）廣瀬浩司・林好雄訳、筑摩書房。

③論文：執筆者（出版年）「論文名」編者『書名または雑誌名』（巻号）、出版社。

（例）井坂理穂（2002）「サバルタン研究と南アジア」長崎暢子編『現代南アジア1 地域研究への招待』東京大学出版会。

④雑誌：執筆者（出版年）「論文名」『雑誌名』（巻号）、出版社。

（例）伊藤成彦（1971）「日本社会主義運動とローザ・ルクセンブルク」『思想』第586号、岩波書店。

⑤新聞：『新聞名』年月日付（朝刊／夕刊）。

（例）『毎日新聞』1971年4月8日付夕刊。

⑥インターネット：該ページの著者名「当該ページの題名」『当該サイトの題名もしくは管理者名』掲載日〈改行して〉URL、最終閲覧日

（例）立川武蔵「マンダラと自然」『ウェブマガジン・エン』2003年3月2日
<http://weben.com/backnumber/0311/main.cfm>（2019年12月20日閲覧）

B：外国文献の場合

- ・邦訳のある場合は、カッコ内に記述する。

①単行本

著者（出版年）書名〈イタリック〉（版次），出版地：出版社.

（例）Samuelson, P. A. (1964) *Economics: an Introductory Analysis* (6th ed.),
New York: McGraw Hill (都留重人訳 (1966) 『経済学—入門的分析』岩波書店).

②論文（単行本掲載）

執筆者（出版年）“論文名,” in 編者名 書名〈イタリック〉, 出版地:出版社.

（例）Chakravarty, S. and R. S. Echaus (1964) “Choice Elements in International
Planning,” in Parker, C. and Davis, M. eds., *Capital Formation and Economic
Development*, London: Allen & Unwin.

③論文（雑誌掲載）

著者（出版年）“論文名,” in 雑誌名〈イタリック〉, 巻号：ページ数.

（例）Morris, J. (1995) “Woman as Shaman: Reclaiming the Power to Heal,”
Women’s Studies: An Interdisciplinary Journal, 24: pp.573-584.